

船舶事故調査報告書

平成22年10月21日
運輸安全委員会（海事専門部会）議決

委員 横山 鐵 男（部会長）
委員 山本 哲 也
委員 根本 美 奈

事故種類	乗揚
発生日時	平成21年8月1日 02時30分ごろ
発生場所	東京都三宅村大久保浜沖 伊豆岬灯台から真方位037° 1,250m 付近 (概位 北緯34° 07.3′ 東経139° 29.9′)
事故調査の経過	平成21年12月11日、本事故の調査を担当する主管調査官（横浜事務所）を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等 L×B×D、船質 機関、出力、進水等	漁船 ^{みの} 三野丸、6.60トン TK2-1630（漁船登録番号）、個人所有 10.50m (Lr) × 3.30m × 0.96m、FRP ディーゼル機関、382.46kW、昭和60年5月27日
乗組員等に関する情報	船長 男性 64歳 一級小型船舶操縦士 免許登録日 昭和54年11月16日 免許証交付日 平成19年11月7日 (平成24年11月8日まで有効)
死傷者等	なし
損傷	船底～船側外板損傷、シューピース折損、舵板曲損、プロペラ軸曲損、プロペラ翼曲損、主機濡損
事故の経過	本船は、船長ほか5人が乗船し、東京都三宅島阿古漁港を出航して、同島大久保浜沖の漁場に向かった。 船長は、三宅島大防鼻の東方沖で、出航後の時間経過から、仕掛けていた刺し網の沖に到達したのと思い、同刺し網に近づくつもりで、右転し、操舵室の天井から頭を出したところ、刺し網の場所を示すボンデンに付けた明かりがまだ先にあり、予定の位置より100mほど手前であることに気付いたが、その直後、船底から衝撃音が聞こえ、船体が大きく揺れた。 船長は、機関を後進にかけ、乗揚箇所からの離脱を試みたが、船内に浸水が認められたので、携帯電話で漁協に乗揚げを通報し、救助を依頼した。 船長及び乗組員は、岩礁伝いに陸に避難した。 本船は、クレーン船によって吊り上げられ、陸揚げされたのち、廃船とされた。

<p>気象・海象</p>	<p>気象：8月1日02時 天気 曇、風向 北東、風力 3、 気温 22.8℃、視程 約15km 海象：波高 約1～1.5m、潮汐 下げ潮の中央期</p>	
<p>その他の事項</p>	<p>本船は、船体のやや後部に船室と操舵室を配置し、レーダーとGPSプロッターを装備していた。</p> <p>船長は、レーダー及びGPSプロッターを作動させていたが、レンジの切り替えなどの操作がよく分からないため、刺し網の場所に近づくときには、使用していなかった</p> <p>船長は、前日の夕方に仕掛けた刺し網のボンデンに灯火を付けており、本事故時、この灯火と大久保浜の灯火を目標にして刺し網に接近するつもりでいたが、出航後の経過時間から、刺し網の沖に到着したと思った。</p>	
<p>分析</p>	<p>乗組員等の関与 船体・機関等の関与 気象・海象の関与 判明した事項の解析</p>	<p>あり なし なし</p> <p>本船は、三宅島北部の大久保浜沖において、仕掛けていた刺し網に接近しようとして右転した際、浅瀬に乗り揚げたものと考えられる。</p> <p>船長は、刺し網の場所を示すボンデンの灯火や大久保浜の灯火を目標にして、刺し網に接近することとしていたが、出航後の時間経過から刺し網の沖に到着したものと思い込み、予定場所の手前で大久保浜に向けて右転したものと考えられる。</p> <p>船長が、右転する前に、ボンデンの灯火や大久保浜の灯火を確認していれば、本事故の発生を回避できた可能性があると考えられる。</p>
<p>原因</p>	<p>本事故は、夜間、本船が、三宅島北部の大久保浜沖において刺し網に接近しようとした際、出航後の時間経過から刺し網の沖に到着したものと思い込んで予定場所の手前で右転したため、大久保浜に向けて航行し、浅瀬に乗り揚げたことにより発生したものと考えられる。</p>	